

社団法人 日本循環器学会
2007年度第3回理事会議事録

日時 2008年(平成20年)1月25日(金) 14時30分~17時00分
場所 東京国際フォーラム ガラ棟 6F(602)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数:20名

出席:和泉 徹、小川 聡、小川久雄、奥村 謙、笠貫 宏、北 徹、島本和明、高田重男、
鄭 忠和、土居義典、友池仁暢、永井良三、堀 正二、堀江 稔、松崎益徳、水野杏一、
山口 徹、横山光宏

欠席:児玉逸雄、藤原久義

その他出席者

監事:今泉 勉、島田和幸

幹事:大津欣也、川嶋成乃亮、白山武司、近森大志郎、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、
廣 高史、藤井崇史、藤田正俊、堀内久徳、松森 昭、南野哲男

アドバイザー:村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局:加藤安雄(事務局長)、清水光則(事務局長代理)

・議事

第1号議案 事業報告・事業計画および収支予算案

- 1) 2007年度事業報告および2008年度事業計画
- 2) 2007年度収支補正予算案および2008年度収支予算案

第2号議案 新入会員承認

第3号議案 2008年度就任評議員・正会員代表選出結果報告

第4号議案 2008年度就任名誉会員・特別会員の推薦

第5号議案 委員会報告

- 1) 財務委員会
- 2) 総務委員会
- 3) 国内交流委員会
- 4) 医療安全・医療倫理委員会
- 5) コメディカル委員会
- 6) 健保対策委員会
- 7) 編集委員会
- 8) 国際交流委員会
- 9) 情報広報委員会
- 10) 教育研修委員会
- 11) 心臓移植委員会
- 12) 循環器救急医療委員会
- 13) 専門医制度委員会
- 14) 学術委員会
- 15) 学術集会運営委員会

第6号議案 年次学術集会報告

- 1) 第72回年次学術集会報告
- 2) 第73回年次学術集会報告

第7号議案 委員会委員承認

第8号議案 その他

- 1) 新入局員の紹介
- 2) 理事会日程確認

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、山口理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第72回松崎会長と第73回堀会会長を指名し、了承された。

- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の7名の物故会員のご逝去に対して、黙禱が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第1号議案 事業報告・事業計画および収支予算案

1) 2007年度事業報告および2008年度事業計画

藤田総務幹事から、資料の通り報告があり、承認された。

2) 2007年度収支補正予算案および2008年度収支予算案

野原財務幹事から、各々の予算案説明にあたり、既に予算委員会及び財務委員会にて審議検討され、事前に説明資料をお送りしている旨報告があった。

補正予算案については、一般会計、専門医特別会計及び学術集会特別会計の申請内容は全て予算化したこと。

また、支部特別会計及び地方会特別会計も各支部の申請通りとし、全5会計の補正予算案が資料の通り示され、承認された。

引き続き、2008年度予算案についても、全5会計共に申請通り予算化しており、詳細については、配付の冊子をご確認いただくよう報告があった。

また、一般会計では国際交流委員会から申請のあった学術集会への招請費用について、今後、学術集会特別会計への資金提供を廃止する。

専門医特別会計は、ACLS必修化が循環器専門医試験に影響を及ぼす可能性があるため、今秋に見直すこと。

学術集会特別会計も例年同様、事業計画を明確にし、今秋に見直すこと。

支部特別会計及び地方会特別会計は、予算上の前期繰越収支差額を実質額とし、また、ACLS事業について今秋に予算の補正申請を行うこと。

とし、以上の条件を踏まえたうえで資料の予算案について承認された。

加えて、今後の予算要求について、予算委員会議事録にある指針 ~ の説明があった。

具体的には、事業計画は継続案件と新規案件とに区分し、期間を明記すること。

年間予算で2,000千円を超える事業は、緊急を要する等の例外を除き、原則、理事会で承認を得たとしても、次年度事業の扱いとすること。

であり、これは今後の公益法人制度の変革期にあつて、当会の財産なり収入に見合う活動を行う必要があり、慎重に活動すべきとの確認と理解を求められ、承認された。

第2号議案 新入会員承認

藤田総務幹事から、2007年6月1日から2007年11月30日までの新入会員408名が資料に基づいて説明され、承認された。

第3号議案 2008年度就任評議員・正会員代表選出結果報告

松崎中央選挙管理委員長から、2007年度に実施された評議員250名および正会員代表200名の選出結果が資料に基づいて説明され、承認された。

第4号議案 2008年度就任名誉会員・特別会員の推薦

議長から、2008年度就任の名誉会員・特別会員の推薦について報告があった。討議の結果、名誉会員として山口徹理事、特別会員として大江透氏および笠貫宏理事を理事会として推薦することが承認された。

第5号議案 委員会報告

1) 財務委員会

横山委員長から以下の通り報告があった。

2007年度11月末日現在の一般会計、専門医特別会計及び学術集会特別会計の収支及び業務について1月18日に監査が行われたこと。

収支内容については、資料の通りであり、補正後の予算対比につき、現状での問題は見当たらないこと。しかし、期末に向けての事業が複数控えているため、極力支出を抑えていただくよう依頼された。

賛助会員の新規入会が、ロシュ・ダイアグノスティックス(株)及び日本コンベンションサービス(株)の2社からあり、合計87社になった。

2006～2007年度活動のガイドライン作成堀班から申請のあった80万円の助成金増額について、資金面では全額の追加助成を決定した。

今後の予算申請について、配付資料に沿って説明があった。

資産状況は単年度活動分しかなく、その大半が特定事業目的の基金であり、流動資金は非常にタイトであること。

また、2008年度は予備費の設定も出来ず、予算的に限界に来ていること。

従って、今後の予算申請については、年間の事業計画及び資金計画を綿密に策定していただくよう協力を求められた。

以上について、承認された。

2) 総務委員会

山口委員長から以下の通り報告があった。

新公益法人制度への移行について、随時専門家から説明を受けている。学会としては公益社団法人格の取得を目指すこととする。定款作成等の具体的作業については、規約審議部会を拡大した改革検討ワーキンググループにて行う。

2008年度就任評議員・正会員代表の選挙結果が報告された。今回から設けた外科系の10%については、各地区とも条件を満たしている。

2008年度就任名誉・特別会員について推薦者を検討した。

内田康美先生から申し出のあった学会賞(「内田賞」)について、公益信託の形で賞金を出していく予定である旨の連絡が内田先生からあった。賞金額については、JCSで一番格の高い佐藤賞との兼ね合いで更に検討する。

会費未納による今年度末退会予定者について、3月末までに会費を納入していただくよう連絡する。循環器用語集について、今後循環器用語を検討する委員会を常設し、ホームページ上等で随時改訂していく。また今回の用語集改定作業に当たって非常にご尽力いただいた渡辺重行先生に、学会から感謝状及び楯を贈呈する。

JCSの知名度を高めるための方策を今後検討したい。その一環として、フェロー制度についても今後検討する。

以上について、承認された。

3) 国内交流委員会

島本委員長から以下の通り報告があった。

医療機器に関する業者の立会い制限について、ワーキンググループで検討し、厚労省へ2度要望を提出した。2007年11月9日付けの意見書において学会の基本的な姿勢を、また2008年1月17日で具体的な要望を要望している。これらの要望については、日本医師会・全日本病院協会・全国自治体病院協議会にも協力を要請した。またこの間、関係する施設にアンケートを実施した。結果としては、現在のところ暫定期間をきめてその間は立会いを認めるという方向で検討されている。

委員会の内規を定めた。

以上について、承認された。

4) 医療安全・医療倫理委員会

島本委員長から以下の通り報告があった。

第72回学術集会時 第7回医療安全・医療倫理に関する講演会について、「医療安全のために我々は今何をなすべきなのか」をテーマに識者を招いて開催する。聴講者には専門医更新に必要な単位が付与される。

診療行為に関連した死亡事故調査モデル事業について、厚生労働省まとめ「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する試案(第二次試案)」に対し、日本内科学会・日本外科学会より意見書が出された。日本循環器学会 医療安全・医療倫理委員会としては同意見書に全面的賛成の旨、回答を提出した。

以上について、承認された。

5) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

臨床検査技師に関する心電図業務認定制度(日本心電学会ほか実施)への参画について討議を行った。その結果、下記の点について先方に提言することとした。

1)心電図業務は看護師等にも必要な業務であり、受験のための基礎資格を広げること
2)JCSが認定者となる場合、試験の質を確保するべきであること
業者立会いに関連して、臨床工学技師会からペースメーカー等業務の認定に関する協力を求められている。これについては、今後先方から具体的な提案を受けて検討する。
JCSにおけるコメディカル会員制度について、将来的な導入を検討する。
委員会内規を資料の通り定めた。

以上について、承認された。

6) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の通り報告があった。

要望書について、アルガトロバンの適応拡大、アミオダロンの心房細動への適応拡大の二通を提出した。

平成20年度診療報酬改定について、一次審査の結果が出た。

ディスプレイ製品の適正使用について厚労省から年末に通達が出たが、これに関してトランスデューサー・ブロッケンプロー針・バイオトームについて、特定医療材料として認めていただくよう、厚労省と協議している。

以上について、承認された。

7) 編集委員会

松崎委員長より以下の通り報告があった。

2007年の投稿論文数は1,088編であった。

約半数が海外からの投稿で、主な国は、Korea、China、Turkey、Taiwan等である。

また、約6割がClinical Investigationであり、今後citationを増やすためにも、Experimental Investigationの投稿が望まれる。

投稿論文の増加に対して採択率が例年通りの約50%台であることから、

過去数年間に渡って65日前後を維持してきた採用から出版までの日数が、2007年には81日、2008年には120日を超えることが予想される。

今後は約40%の採択率を目指し、採用から出版までの日数を80日前後に戻したいと考える。

投稿論文が増加しcitationが減少傾向にあることから、2006年に2.135であったImpact Factorも今後下がることが予想される。海外誌に投稿の際には是非ともCirculation Journalからの引用をお願いしたい。

投稿論文が増加したことを受け、現在の23名のAssociate Editorに加えて、プレナリー・PCI関係で1名、疫学で1名、肺循環で1名、代謝ないしはメタボリックシンドローム関係で1名、外科で1名の計5名を追加することとなった。

2007年Vol. 71 Circulation Journal Awardの最終選考の結果、Clinicalの優秀賞が同点2名となり、計以下の5名に決定した。

= Clinical Investigation =

最優秀賞: Dr. Kyoichi Wada (National Cardiovascular Center)

Relationship Between Acute Rejection and Cyclosporine or Mycophenolic Acid Levels in Japanese Heart Transplantation (Circ J 2007; 71: 289 - 293)

優秀賞: Dr. Tatsuro Kitahara (Yamagata University School of Medicine)

Serum Carboxy-Terminal Telopeptide of Type I Collagen (ICTP) Predicts Cardiac Events in Chronic Heart Failure Patients With Preserved Left Ventricular Systolic Function (Circ J 2007; 71: 929 - 935)

優秀賞: Dr. Tetsuya Tatsumi (Kyoto Prefectural University School of Medicine)

Intracoronary Transplantation of Non-Expanded Peripheral Blood-Derived Mononuclear Cells Promotes Improvement of Cardiac Function in Patients With Acute Myocardial Infarction (Circ J 2007; 71: 1199 - 1207)

= Experimental Investigation =

最優秀賞: Dr. Eiji Toyota (Kawasaki Medical School)

Novel Rat Model of Ischemic Cardiomyopathy Induced by Repetitive Myocardial Ischemia/Reperfusion Injury While Conscious (Circ J 2007; 71: 788 - 795)

優秀賞: Dr. Mutsuo Harada (Yamagata University School of Medicine)

Diacylglycerol Kinase Attenuates Pressure Overload-Induced Cardiac Hypertrophy (Circ J

2007; 71: 276 - 282)

2008年の投稿論文数が1200編超と予想され、現在の編集体制を見直す必要があると考える。
以上について、承認された。

8) 国際交流委員会

小川委員長から以下の通り報告があった。

2007年度に選出され、2008年4月1日から認定される国際名誉会員は、Dr. Shahryar A Sheikh、Dr. Sydney C. Smith, Jr、Dr. William John McKennaの3名である。3名のうち、Dr. Shahryar A Sheikh、Dr. Sydney C. Smith, Jrが第72回学術集会に出席され、楯の授与を行う。Dr. William John McKennaは欠席される。

World Congress of Cardiologyの招致準備委員会活動は順調に2014年に向けて活動を行っている。また、第72回期間中にWHFセッションを開催する。

APSC事務局活動では、会費及びAPCC剰余金の徴収も順調に進んでいることから、APSC専属の派遣社員を雇用し、さらに安定した運営を目指していく。

APSC加盟国で開催するジョイントシンポジウムにJCSから演者を派遣する。2008年度はインドネシアとフィリピンへ派遣する予定となっており、派遣候補者を検討している。

以上について、承認された。

9) 情報広報委員会

永井委員長から以下の通り報告があった。

2007年10月10日に第一回プレスセミナーが開催された。山口理事長に開会挨拶を頂き、座長の笠貫先生の進行のもと「心肺蘇生のための新たな展開＝日本における突然死から“いのち”を守ろう＝」をテーマに4名の先生に講演を頂き盛況に終わった。

第2回プレスセミナーの開催形態については、心臓財団とのコラボレーションも検討したが、法人の公益性などの問題もあり両者のメリットが不明瞭であるため、その点については今後慎重に議論していくこととする。

「JCS Newsletter」の開封率は概ね60%代を推移しており、今後はさらに開封率を上げるべく表現・内容を創意工夫していく。

以上について承認された。

10) 教育研修委員会

北委員長から以下の通り報告があった。

小委員会であるAED検討委員会三田村委員長より、当初の目的が果たされたため今年度をもって委員会活動を終了したいとの申し出があった。しかしながら笠貫委員より、2008年度以降はAED検討委員会を循環器救急医療委員会の傘下に移したいとの提案があったので承認を得たい。

以下は島本委員より報告された。

ライブ・デモンストレーション実施要項について前回理事会で、教育セッションでのライブで企業の寄付を受けることができるかとの疑問があったが、日循が契約している税理士法人トーマツの見解では、寄付を受けることに問題はないという見解であった。ただし委員会では、寄付を行った企業名をプログラムの該当ページに掲載することは相応しくないと判断した。

前回理事会で笠貫委員より、毎回この実施要項を見直す条項を加えるよう要望があったため、今回提示する最終文案に追加した。

以上について承認され、またライブ・デモンストレーション実施要項の最終文案も承認された。

11) 心臓移植委員会

西垣幹事から以下の通り報告があった。

2007年12月31日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。

心臓移植に関する推進・発展・啓発のため、第4回心臓移植セミナーを「我が国の心臓移植後患者の長期予後-QOLの現状と今後の課題」と題して、第72回学術集会の際に資料のとおり開催する。

臓器提供意思表示カード普及推進のため、2003年から行っているカードと普及ポスターの配布事業について、2007年度も全国の大学・短期大学・警察学校など約1,200の学校に配布する。

以上について、承認された。

12) 循環器救急医療委員会

笠貫委員長から以下の通り報告があった。

日本蘇生協議会 (JRC) が 2009 年 3 月に世界蘇生協議会 (ILCOR) を大阪で開催することが正式決定し、それにさきかけて第 72 回学術集会前日の 3 月 27 日 (木) に山口理事長、松崎会長の許可を得て第 1 回蘇生科学シンポジウム (J-ReSS) を開催することとなった。JRC の中心的なメンバーとして今後も学術集会前日に J-ReSS を開催することをお願いしたい。2009 年 ILCOR 会議については次回理事会にて詳細を報告したい。

JCS-ITC のファカルティ、インストラクターの人数が不足していたが、現在多くの日本 ACLS 協会インストラクターの JCS-ITC への移籍が進められ、活動を開始している。

現在、各支部で ACLS コースの開催が行われ、2008 年度専門医試験の受験者はほぼまかなえる状況となっている。

ACLS に加えて BLS コースの開催も行われるようになり、各支部で小児用マネキンの不足や支部本部の事務態勢の問題が起こっている。2008 年度もトレーニング態勢の補強が必要であり、これについては次回理事会にて報告する。

循環器救急医療小委員会で循環器研修施設と E メールアドレスを登録している会員を対象に循環器救急医療に関する実態調査を行っている。蘇生科学小委員会の長尾建委員長がさきほどの J-ReSS のプログラム委員長を務めているが、この結果を J-ReSS にも反映させたい。

また、堀理事より 2009 年 ILCOR は第 73 回学術集会とはまったく独立したものかという質問があり、笠貫委員長より以下のとおり説明があった。

- 1) 2 日間のコンセンサス会議と 3 日目に第 2 回 J-ReSS を行う構成
- 2) 参加人数は 300 名程度
- 3) 開催経費については独立させ、学会の負担とならないようにする
- 4) JCS がリーダーシップをとって行いたい

以上について、承認された。

13) 専門医制度委員会

土居委員長から以下の通り報告があった。

2008 年 4 月 1 日付けで心臓リハビリテーション学会が関連学会から循環器関連学会へ変更となるため、年次学術集会への参加単位も 1 単位から 3 単位に変更され、心臓リハビリテーション学学会誌へ論文が掲載された場合、3 単位取得できることとなった。

専門医認定制機構に指摘された本学会の専門医制度の問題点については、現在下記のとおり検討中である。

1) 循環器専門医の医師像について

循環器専門医としての知識と能力と技能があるということを箇条書きにして提示し、関係者以外が見ても「循環器専門医とは何か」が理解しやすいように公表する。

2) 指導体制について

研修カリキュラムをもとにチェックシートを作成し、そのチェック項目を循環器専門医がチェックし、申請者の責任者が確認した上で署名をする。チェックシートの内容については、引き続き検討する。また、指導医制度についても今後引き続き検討する。

3) 認定更新の際の必要研修内容について

学術集会への参加および医療安全・医療倫理に関する講演会への参加を必修化する。講演会に参加できない先生への対応として、講演内容を録画したものをインターネットで見ることができるようにするなどの対策を検討する。単位数などの詳細については引き続き検討する。

14) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

厚労省から依頼のあった医療ニーズの高い医療機器策定案 (植え込み型のホルター心電計: 小川聡先生、エキシマレーザーによる不具合リード除去システム: 奥村謙先生) がまとめられた。

「2006 年循環器疾患診療実態調査報告書」(土居義典主査 (冊子)) が配布された。2006 年調査については、研修施設回答率 88%、関連施設回答率 81%であった。各種の治療の内容が 2004 年と 2006 年対比となっており、日本循環器学会ホームページにアップする。2008 年度も継続してこの事業を進める。

厚労省から依頼のあった重篤副作用疾患別マニュアル (うっ血性心不全: 友池仁暢先生、Torsades de Pointes を含む心室頻拍: 堀江稔先生) について完成版がまとまった。

ガイドラインダイジェスト版ポケット版の作成について、第 72 回学術集会時に 5 冊、3500 部ずつを作成することになった。

第 72 回学術集会時に「ガイドラインに学ぶ」と「ガイドライン解説」のセッションを開催する。

ガイドライン作成班構成について、以下のとおりである。

- ・「循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン」改訂版（堀正二班長）班構成を決定した。
 - ・「ペースメーカー、ICD、CRT を受けた患者の社会復帰・就学・就労に関するガイドライン」（奥村謙班長）班員、外部評価委員及び参加学会が追加された。
 - ・「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン」（野原隆司班長）及び「循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン」（百村伸一班長）がタイトル変更となった。
 - ・「脳血管障害・腎機能障害・末梢血管障害を合併した心疾患の管理に関するガイドライン」（堀正二班長）の班員 1 名が辞退された。
 - ・「肺高血圧症治療ガイドライン」改訂版（中野起班長、日本循環器学会ホームページ公開中）ダイジェスト版について米国 ACCP ガイドラインが変わるのにあわせて一部修正要請があった。お詫びと訂正を記載いただいた上で、ダイジェスト版の再修正を受け付ける。
- ガイドライン情報開示について、ガイドライン作成時に申請をいただく。一般に開示するかどうかについては、国内の他の学会もまだ開示まではしていないことから、1 年様子を見た上で、継続審議となった。

以上について、承認された。

15) 学術集会運営委員会

北委員より以下の通り報告があった。

第 73 回学術集会のプレナリーセッション、シンポジウムの日英タイトルおよびジョイントシンポジウムの国内座長案が決定された。

第 72 回学術集会美甘レクチャー招待演者 Dr. Kenneth R. Chien の旅費について、会長校の決裁によりご本人ならびに同伴者の計 2 名分を学術集会特別会計で特例的に負担する。

第 73 回～第 75 回に適用する査読カテゴリーについて決定された。笠貫宏理事からの提案による「ストレス心身医学」が追加された他、全体的にカテゴリーを細分化しプログラム編成作業を柔軟に行えるよう配慮された。

学術集会国内招待演者の待遇に関して、謝金額の税込表示や明記不要な対象者の削除など、既存の規程を分かりやすく再整理したもので今後は運用していく。

学術集会セッションの事後評価を第 72 回学術集会にて行う。プレナリーセッションおよびシンポジウムについて評議員に評価を依頼し、学術集会同期後に WEB のアンケートフォームから入力してもらう。

学会賞の募集要項について、論文を顕彰する学会賞の募集要項には、応募者がファーストオーサーであることを明記する。

以上について、承認された。

第 6 号議案 年次学術集会に関する件

1) 第 72 回年次学術集会報告

第 72 回学術集会松崎益徳会長から以下の通り報告があった。

ライブデモンストレーション（3 月 27 日開催）のメインテーマは、「ライブの原点を見直す」。4 会場に別れて開催。小倉記念病院：延吉正清先生を責任者とし、PCI のライブと外科はビデオライブを行う。

第 72 回学術集会一般演題採択演題 2,345 題（採択率 61.1%）、Featured Research Session 24 セッション、120 題、口述発表は英語 421 題、日本語 265 題、ポスター発表は英語 592 題、日本語 937 題とした。

セッション数としては、美甘レクチャー、真下レクチャー、特別講演 10 題、プレナリーセッション 7 題、シンポジウム 20 題、ジョイントシンポジウム 4 題、ラウンドテーブルディスカッション 8 題、トピックス 6 題、コントラバーシー 6 題、ミート・ザ・エキスパート 6 題、モーニングレクチャー 21 題、Late Breaking Clinical Trials Session 14 題とした。

会長特別企画として、5 セッションを組んだ。特に「循環器医として CKD にどう対処するか」は、日本高血圧学会と日本腎臓病学会のジョイントシンポジウム企画とした。

市民公開講座としては、「健康寿命を延ばすために！～生活習慣病に打ち勝つ～」と題して3月30日に開催する。

ACC2008 と会期重複があったことに対して、President である Dr. James Dove と昨年 of AHA で会合をもった中で、ACC 側から事務局サイドで日程ミスがあったとの報告を受けた。今回の ACC2008 との日程重複を踏まえ、次回以降は可能な限り各国の学会に日程調整をするを依頼した。

第 33 回日本心臓財団「佐藤賞」には 10 名応募の中から、清水渉先生（国立循環器病センター心臓血管内科）「致死性不整脈疾患の遺伝子診断とその臨床応用」に決定した。

2) 第 73 回年次学術集会報告

第 73 回学術集会堀正二会長から以下の通り報告があった。

2009 年 3 月 20 日～22 日、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテルにて開催、メインテーマは「リスクに挑戦する循環器病学 新たな展望と戦略」。取り上げられているリスクとはリスクファクターのリスクから社会的な広い意味のリスクまでを設定した。

美甘レクチャーは Dr. Piero Anversa に、真下記念講演は審良静男先生に、特別講演は 7 名を予定。

ライブデモンストレーションや市民公開講座も開催予定している。

第 7 号議案 委員会委員の承認

議長から、前回理事会以後に生じた各委員会の設置及び委員等の異動について資料の通り報告があり、承認された。

第 8 号議案 その他

1) 新入局員の紹介

藤田総務幹事から、本年 1 月より編集担当職員として採用となった細道初夏氏の紹介があった。

2) 理事会日程確認

議長から、今後の理事会の日程について資料の通りである旨、確認があった。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2008 年 1 月 25 日

社団法人 日本循環器学会 2007 年度第 3 回理事会

議 長 山 口 徹

議事録署名人 松 崎 益 徳

同 堀 正 二

(以下余白)